

# 革新力

## ■未知の業界へ挑戦

いまや定番の「ツナ マヨネーズ」おにぎり。元祖はセブン・イレブンの「既存中小売店の近代化と活性化」に可能

「既存中小売店の近代化と活性化」に可能

うまくいかない、という反対意見もあった。

主導したのは鈴木敏文

専務（当時）だった。

「既存中小売店の近代化と活性化」に可能



オープン当時のセブン・イレブン1号店（豊洲店）、下は大阪・関西万博会場の未来型店舗＝写真はセブン&アイ・ホールディングス提供



は、4月17日の就任記  
買い物体験の3つの視  
点で未来に向けた取り  
組みを行っている。踏  
んだ振動を電気に変換  
する素材を使用した発  
電床を一部に設置。水  
素エネルギーから発電  
「わくわく感」のある  
店をオーナーとともに  
作り上げていきたい。  
「セブンカフェスムー  
ジー」を稼働させる。  
持続可能な原材料を使  
用したオリジナルフレ  
ード比率を約8%か  
ら、2030年には50  
%まで高める。麺類（ス  
パゲティを除く）の国  
産小麦100%化を目  
指す。原材料の地産地  
消費も進める。

「お買い物が難しい  
状況や地域への解決策  
として、専用アプリを  
通じて最短20分で商品  
をお届けするサービス  
『NOW』や、移動販  
売サービスの『セブン  
あんしんお届け便』に  
さらに取り組んでい  
く（セブン・イレブン・  
ジャパン）。

来店客が商品のスキ  
ヤンから清算まで行う  
「セブンスマホレジ」  
を導入するなど、従業員  
の負担軽減や生産性向  
上の取り組みも進めて  
いる。

コンビニエンススト  
アは、社会課題の解決  
にも貢献していく。

## 暮らしの便利を追求し、明日の笑顔と共に創る

### セブン・イレブン ブン・ジャイパン

性を見出し、様々な課  
題を克服して推進。フ  
も進めた。全国に約2  
万1千店舗、1日平均  
2千万人が利用する。  
独自の商品開発も続  
く。セブン&アイグル  
が豊富に並ぶ。千葉  
松戸市にある新コンセ  
プト店舗「SIP（シッ  
プ）ストア」。

ここで得られた成功体  
験や要素は他店舗にも  
拡大していく計画で、  
具体的には焼きたての  
パンや菓子を提供する  
「セブンカフェベー  
ベーム（ニューミー）」  
が不要なため、先進的  
な取り組みも進んでい  
く（セブン・イレブン・  
ジャパン）。

1974年に1号店  
（東京・豊洲）が開店し  
てから半世紀が過ぎ  
た。地域特性に根ざし  
たきめ細やかな品揃  
え、サービスを展開。コ  
ンビエンスストアは  
OSシステムを導入  
生活の一部になった。

創業当時、スパー  
が主流。小型店舗のコ  
ンビエンスストアは  
した。公共料金の収納  
ブ全体で1兆5千億円  
いくための実験店だ。  
知洋氏（5月1日就任）

店舗では環境、商品、  
を満たしたフレッシュ  
にも貢献していく。

店舗では環境、商品、  
を満たしたフレッシュ  
にも貢献していく。